

土方の魂はここに にある

日野に生まれ暮末に活躍した新選組の副長・土方歳三。没後150年に当たる今、NHK大河ドラマなどで土方歳三を演じた俳優・山本耕史さんに土方の魅力や、日野の印象などを聞きました。



山本 耕史

●やまもと こうじ

1976年10月31日生まれ(42歳)。0歳からモデルとして活動をスタート。NHK大河ドラマ『新選組!』『真田丸』、舞台『レ・ミゼラブル』『メンフィス』など、テレビや舞台で活躍中。2019年1月18日には映画『刀剣乱舞』が公開予定。

没後
150
歳三×日野
Toshizo Hijikata

大河ドラマでは、
土方歳三という人間を
生きさせてもらいました

大河ドラマのオファーをいただいたとき、近藤勇、土方歳三、沖田総司の名前ぐらいは知っていました。新選組について詳しいことは知りませんでした。三谷さん(『新選組!』脚本家の三谷幸喜さん)が「山本くんが土方歳三にぴったりなんだよ」とおっしゃって、「そう言うてくださるのなら」と思い、撮影に参加しました。

2004年に放送されたので、もう15年も前の作品なんです。今でも土方歳三といえば山本だろうと声を掛けていただける。本当にすごい作品で、土方さんを演じることができてとてもうれしく思っていますし、役者人生のなかで大きな出来事になりました。



同じ役柄を演じるのは、普通のドラマなら3カ月、舞台でも長くて半年程度です。大河ドラマは撮影期間が1年2〜3カ月で、それだけでも長いのに、2006年に『新選組!! 土方歳三 最期の一日』、さらに2015年には連続テレビ小説『あさが来た』にも土方歳三役で出演。まさかこんなに長く演じることになるとは。

土方さんは規律に厳しく、新選組の「鬼の副長」と呼ばれていたそうですが、『新選組!』の撮影中は僕自身も、良くも悪くも、「鬼の副長」さながらにいきり立っていたんじゃないかな。役を演じたというよりも、史実に基づいて山本耕史が、現代の形で土方歳三という名前前で、似た人間を生きさせてもらった感じ、といった方がいいのかな。ちゃんとその役を生き、と思えた役でした。

印象に残る、日野時代の 近藤勇とのシーン

みなさんは、ドラマのなかの「待たせたな」というセリフが印象的だとおっしゃいますが、『あさが来た』でもこのセリフで登場しファンを喜ばせた)、僕は作中で、日野時代の勝つちゃん(島崎勝太。のちの近藤勇)との場面が印象に残っています。勝つちゃんが「何か大きなことをやろうぜ」と夢を語るのですが、それに対する僕(土方)の答えは「考えておく」。「そうだな、一緒にやろう」なんて夢や希望は言わない。この後、一緒に京都へ行き新選組となり、幕府のために戦い、近藤さん

が新政府軍に捕らえられ一生会えなくなるまで、ふたりは運命を共にするわけですが、すべてはここから始まっていたという、印象深いシーンです。

「土方さんが生まれた場所なんだ」と感じながら
日野市内を歩きました

土方さんのゆかりの地はあちこちめぐりました。日野にも何度も来ましたよ。高幡不動尊には豆まきで参加させていただいたり、バイクが好きなのでバイクの安全祈願にも来ました。日野には土方という名前の方が本当に多いですね。びっくりしました。



土方さんが生まれ育った場所なので、その空気を感じながら市内を散策しました。日野で毎年行われている「ひの新選組まつり」に参加したこともあり。市民の方が僕を見かけると声を掛けてくれて……。土方さんや新選組を、今も愛しているんだな、と感じました。

規律に厳しかった土方さんですが、一方で、とても人望もあつた人だったと感じます。戊辰戦争の戦いのなかで近藤さんが新政府軍に捕らえられ亡くなるわけですが、以降優しくなったというのは、とても理解できる気がします。近藤さんと新選組を取り仕切っていた時代が終わったと感じ、心の中

土方歳三がテーマの作品

山本耕史
さん
おすすめ



NHK DVD 新選組!!
土方歳三最期の一

発行・販売元
NHKエンタープライズ
©2006 NHK



バラガキ
土方歳三青春譜

中場利一 著
発行元/講談社
(品切れ・重版未定)

COMMENT 大河ドラマ『新選組!』の放送後に続編として2006年正月のスペシャルドラマ向けに制作されて、主演しました。死を覚悟して戦った証として写真を撮り、日野に届けさせたり、土方さんらしいエピソードから彼の人物を感じるこの作品です。

COMMENT 演じるうえで参考にしました。「バラガキ」とは幼少の頃の土方さんを表す言葉です。この本で、役柄を「なるほど」と理解できました。司馬遼太郎さんの描く土方さんは厚重なイメージでしたが、この本はやんちゃな描かれ方で、親しみやすかったですね。